

情 報

更生の花は
慈愛の土に咲き



文京区保護司会



INDEX

会長あいさつ	2
文京区社会を明るくする運動	3
学校紹介 文京区立林町小学校	4
地域活動紹介 大原青少年健全育成会	6

令和2年度第Ⅲ期定期例研修	8
令和2年度文京区保護司会年末全員集会	9
会務報告	10
更女だより	11
ホッと一息 あとがき	12

令和二年度を振り返って

文京区保護司会 会長 亀田 一良



令

和三年も早いもので二月の中旬を過ぎ、令和二年度も残り一か月余りになってきました。そこで文京

区保護司会の今年度を振り返ってみました。

今年度は今までの年と異なり、一年前の今頃から新型コロナウイルスの問題が出てきました。横浜に停泊したダイヤモンドプリンセス号の客船から多くの感染者が出たのをはじめ、国内においても感染の拡大が止まらず、四月七日に一回目の緊急事態宣言が発出されました。不要不急の外出は控える、小・中・高校は休校になる、飲食店をはじめ多くの店舗が営業を控えるとか、今までに経験したこともない状態になりました。私たちが会合を行う会議室も借用することが出来なくなり、五月の定時総会も書面により賛否をいただく

ことになりました。また七月に行っている「社会を明るくする運動」ですが、今回は七十回

目の節目でしたが、文京区大会、東京ドーム周辺広報啓発活動、文京矯正展の三本柱が全て行えなくなっていました。文京区大会、東京ドーム周辺広報啓発活動については日を改めて行うことは難しいが、文京矯正展と何とか形を変えて広報啓発活動を別の日に出来ないだろうかと地域活動部を中心に考えてもらい、十二月のクリスマスの時、二十四日・二十五日に設定して準備を進めました。府中刑務所より今年度の矯正展は全て中止という連絡があり、文京シビックセンター周辺で広報啓発活動を参加出来る団体に声をかけ行いました。配布方法にも気をつかい全員が白手袋をして、広報啓発品は紙袋に入れ短時間で二日間行いました。その他に区立中学校の先生・生徒全員に広報啓発品を配布しました。

合わせるということでは意義があったのではないかと思っています。

その後も新型コロナウイルスの感染拡大は収まらず、一月七日に二回目の緊急事態宣言が発出され、一か月の予定がさらに延長されました。このため一月に予定していた区立小・中学校PTA連合会・青少年委員代表との意見交換会、二月の合同班会、三月の三者懇談会等、毎年行っている主な行事が全て中止になってしまいました。その他に管外研修、文京区青少年関連団体交流会等も行うことが出来ませんでした。またサポートセンターも緊急事態宣言が出ている期間とその前後は閉じざるをえませんでした。各部会、各班会も思ったように活動することが出来ませんでした。

そして我々の一番大切な対象者の保護観察ですが、今までは毎月面接を定期的に行っていました。これもあまり出来なくなり、観察所からの通知で電話での確認という方法になり、対象者を受け持っている人は大変やりづらくなったことと思います。

このように今年度は今までは考えられない一年になってしまいました。新年度に入っても今の状態はまだ続くと思いますが、一歩でも今より前進出来るように考えながら全員で盛り立てていけたらと思います。

文京区社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

令和2年12月24日(木)・25日(金) (両日ともに12:40～13:30)

- ①文京シビックセンター春日通り側出入口付近
- ②文京シビックセンター礒川公園側出入口付近
- ③文京シビックセンター地下2階区民広場地下鉄連絡口



において広報啓発活動を行いました。

毎年7月に保護司会のメイン行事である「文京区社会を明るくする大会」、東京ドーム周辺啓発活動「社会を明るくする運動」、「文京矯正展」を実施しております。

社会を明るくする運動の趣旨『全ての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動』を訴えて参りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の猛威によりすべて中止となりました。

しかしながら、文京区社会を明るくする推進委員会と文京区保護司会地域活動部会、文京区福祉部福祉政策課で話し合い「文京区社会を明るくする運動」の広報啓発活動を縮小した形で行うことになりました。

まず、区報「7月10日号」及び区ホームページに社会を明るくする運動の趣旨を掲載しました。

次に、都立工芸高校の大仲和奏さんの原画を使用して、「社会を明るくする運動」の啓発ポスターを作成し、区設掲示板・区有施設等に掲示し、ホームページにも公開しました。

そして、11月末に福祉政策課職員と保護司会地域活動部長が、区立中学校10校の職員室に啓発品をお届けし、ご担当の方に以下の方々へのご配布をお願いしました。生徒、教職員、PTA本部役員

の方々2,870人です。

毎年恒例の文京矯正展は12月24日から3日間開催する予定でしたが、残念ながら中止となったため、24日・25日の2日間、シビックセンター周辺3カ所で啓発品を配布することにしました。通行人等に啓発用リーフレット、絆創膏(メディックバン)やティッシュ等を配布し、この運動の趣旨を呼びかけます。

当日、午前集合し啓発品を小型の手下げ紙袋に詰め、午後から密を避けながら通行人に紙袋の底を持って手渡し、運動の趣旨を呼びかけました。更生保護のマスコットキャラクター「更生ペンギンのホゴちゃん」のお友達である「サラちゃん」やサンタクロース、トナカイも参加しました。そして以下の方々にご参加いただきました。

24日 成澤文京区長、古川智之保護観察官、文京区保護司会36名、区職員5名、文京区更生保護女性会5名、文京区青少年健全育成会、ガールスカウト217団、富坂警察署

25日 成澤文京区長、文京区保護司会33名、区職員5名、文京区更生保護女性会4名、ガールスカウト217団

幅広く様々な団体のご協力や支えが必要です。安心・安全に暮らせる明るい街づくり、特に地域を見守る人々を増やすことが望まれます。

地域活動部会副部長 伊古田 憲子



創立百十周年を迎えて

文京区立林町小学校長 松本 竜太郎



本

校は、明治四十三年十月十八日、「林町尋常小学校」として開校式が行われました。また、周りは桑畑で、

校舎は教室が五つ、小さな職員室、事務室など二、三あるだけでした。そして、明化小学校から分かれてきた児童四百九十八名、十名の教職員でスタートしました。

当時は、「何でも日本一」というのが林町小の標語で「日本一の学校にせねばならぬ」「日本一の生徒になさねばならぬ」と日々教育活動に取り組まれていたそうです。林町小の校章は「桜の花」を基調として、その花の中に林町の文字を書いています。これは、「花といえ桜」「学校といえ林町が日本一」という願いが込められています。

また、保護者・地域の方々も実に協力的で、例えば、今でいうと理科の教科書に載っている石や草花が学校にないと、「十里を遠しと

せず」約四十キロも離れた場所にも行って必ず見付けて持ってきてくださったそうです。この話は、現在のPTA活動にも繋がっていると思います。「林町小のPTAは熱い」という言葉を今まで様々な方から何度もお聞きしました。本年度のこの状況下においても、多くのご支援を賜り、共に学校を支えていただいています。

林町小のシンボルツリー「たいさん木」

大正時代に入り、林町小のシンボルツリーでもある、「たいさん木」が植えられました。これは、大正博覧会の際、上野の会場から区の職員が持ってきたそうです。その後、鉄筋校舎ができるときに植え替えをしました。うまく根付くか心配したそうですが、移植後はすくすくと成長し現在の立派なシンボルツリーに成長しました。この「たいさん木」の

名にちなんだ、「たいさん木の広場」の活動も保護者や地域の方々によって運営されています。

そして、昭和の時代となり、「東京市林町国民学校」「東京都林町国民学校」と校名変更があり、昭和23年に現在の「文京区立林町小学校」となりました。

ひまわり学級の開設もありました。対象児童七名、教員二名で開級しました。現在は、児童二十四名四学級です。現在も、特別支援教育の推進を続けています。

平成二十二年に開校百周年を迎えてから、十年、これまでに巣立っていった卒業生は、一万一千三百三十六名にも上ります。そして、今年度の六年生、九十三名が三月に卒業を迎えます。



開校110周年記念式典

十一月二十一日に、本校体育館におきまして、「開校110周年記念式典」を行いました。当初予定していた内容から、大幅な変更を余儀なくされました。参加人数や実施時間、及び内容の縮小。コロナ感染拡大防止策の徹底を図りながらもできる限りの式典を計画いたしました。

一部、二部制とし、第一部では、校長式辞、文京区長 成澤廣修様よりご祝辞をいただきました。その後、一部のみ、在校生代表として参加した、六年生吹奏楽団の演奏をバックに、六年生代表児童による、「よろこびの言葉」を発表しました。在校生代表として参加した六年生は、高学年らしい態度で式に臨むことができました。また、練習できる時間が短かったにも関わらず、吹奏楽団の六年生は、素晴らしい演奏を披露してくれました。

第二部は、まず、寺井恵美子周年実行委員長、加藤良彦同窓会長様よりご挨拶をいただきました。そして、記念品贈呈、同窓会よりさくらの木をいただきました。植樹を来年の二月に予定しています。第十九代 森秀一郎校長先生、第二十一代 小川深雪校長先生から祝辞をいただき、最後は、PTA会長 阿

部浩明様よりご挨拶をいただきました。

短時間ではありましたが、晴天のもと、無事式典を終えることができ、ご来賓の皆様、本校を日頃より支えてくださっている地域・保護者の皆様に感謝申し上げます。

歴史と伝統を未来につなぐ

令和二年、開校百十周年を迎えた、この記念すべき年に本校の教育に携わることができたこと、そして、ご参列いただきましたこと、ご来賓の皆様方をはじめ、たくさんの方々のおかげをもって記念式典を挙行できましたことを大変光栄に思っています。

今後、林町小学校は百二十年、百三十年、百五十年とさらに歩み続けます。今までたくさんの方によって、大切に築き上げられた本校の「歴史」や「伝統」をさらによりよいものとして「未来の林町小学校」へ引き継いでいくため、教育活動をさらに充実させてまいります。

百十年という歴史とその間、築きあげてきた伝統を、さらによりよいものとして未来の林町小学校へ引き継いでいくためにも、児童、教職員、保護者、地域の皆様とともに、教育活動をさらに充実させて参りたいと思えます。今後ともご協力をお願いいたします。



親子で楽しんでください

大原青少年健全育成会 会長 安田真也



大 原青少年健全育成会は、白山通りと北の方に位置します。この中に、区

立の中学校1校、小学校3校、幼稚園1園の他に都立私立の幼小中高大の学校があり、文京区の中でも人口が密集している地域で、ここにある16の町会と一緒に日々活動をしています。大原青少年健全育成会での活動の基本は「親子で参加して楽しんでもらう」ことを念頭において

行事企画を行い、そして大原地区町会連合会と合同で行うことにしています。

◎合同ラジオ体操会

昭和46年から続く大原地区町会連合会との合同行事です。毎年7月最後の日曜日に、各町会で行っているラジオ体操を、小学校や中学校の校庭をお借りして、町会単位で参加し



てもらおう合同行事です。多い時は8000人余の参加がありました。最近では5000人程の参加人数になっています。それでもこの人数でのラジオ体操は、圧倒される壮大な眺めです。ラジオ体操には必ずある参加賞ですが、子どもから大人まで共通の品物で何を用意するか毎回悩むのですが、それも楽しい準備になります。

◎大原夏祭り

平成20年8月、今まで夏や冬の行事が無かったので、何かできないか？と相談した結果「夏休みの夕涼み会」が企画されました。当初は2000人程の参加

で短時間で遊べる行事と想ったのですが、企画会議を進めると話はどんどん大きくなり、町会連合会、地域の商店会と合同の実行委員会を組織し、商店会の道路



を閉鎖して飲食やゲームのお店を出店することになりました。初めてのことで、資材の準備、関係各署への届け出や近隣へのご挨拶など苦労しましたが、スタッフの全員が一致団結し第一回目を開催することができました。

商店会のある道路での

開催は第五回まで続きましたが、来場者や出店者が増え、管理が難しくなってきたので、第六回目から文京十中の校庭をお借りして開催しています。そして、夏休み最後の土曜日は「大原夏祭り」に行くというのが大原地区の風物詩となり、町会や小中学校のPTA、地域の団体などが、飲食店（やきそば・フランク・たこ焼き・カキ氷・タピオカ・フルーツ春巻き・綿菓子）ゲームコーナー（モンキーブリッジ・スーパードール・射的・工作・ミニゲーム・わなげ）などを出店してもらい、多くの地域の皆さんに楽しませて頂いているみたいです。令和元年の開催時には3200余の来場者がありました。

◎大原スポーツ祭り

平成14年10月から始めました。地域内の町会が行なっていた運動会を引き継ぐ形で、文京十中の中学生を実行委員会に入れて組織しまし



た。競技の企画、参加景品の買い出し、スタッフTシャツの印刷作成などを中学生と一緒に、今でも続いています。競技の紹介ですが、第一回から続く「三世代リレー」は、中学生が考案し、小学校低学年、高学年、中学生、高校生、大人を男女各2名の10人で5チームを作り、各世代の健脚自慢が登場し、楽しませてくれます。「町会対抗玉入れ」は、入場時に町会名を確認し、自分が住む町会に参加するように呼びかけます。大勢集まる町会が有利にならないよう競技方法を毎年調整しています。「綱引き」は景品が秋の味覚の秋刀魚のために、大人が一番盛り上がり、子どもたちが脇で親を応援する光景が毎年見られます。「パン食い競争」は古典的な競技ですが、これに参加しないとお昼ご飯が無いとなると、皆さん必死になります。毎年同じ競技内容なのですが、それでも少しずつ増え参加人数も500人超となり、地域に根付いた行事になってきました。



この三つの行事をメインとして活動しており、その他に2年に一度のバスハイク、救命講習会、自転車講習会などを行ってきました。また、大原地区の有志で作る「南会津町交流雪

遊び」（地区内の小学校に福島県南会津町の雪を届ける行事）も当会が全面的に協力しています。しかし、令和2年度は残念ながら全ての行事を中止という判断をしました。それでも一部の委員の中から、「何か新しい形の



行事をしてみたい」「親子で安全に楽しめる行事があるはず」という意見が寄せられ、中止になった夏祭りスタッフを中心に「大原地区の町会掲示板を使用するクイズラリー」という原案ができてきたらあとは早いです。次から次へと案が上がりました。

◎ハロウィン謎解き2020

まず初めに「感染防止対策チーム」と「交通安全対策チーム」を立ち上げ、スタッフが考案したゲームに対応していきます。参加申込方法は対面接触を避けるため、インターネットからの申込、受理案内書も郵送及び学



校経由としました。ゲームは親子3人までを1組とし、午前午後100組ずつの参加にしました。ゲームは指示された町会掲示板を探し出し、そこに書かれたキーワードをヒントに宝探しをします。コロナ禍でなかなか親子で外出ができなかったのでしょうか、ハロウィンの仮装をして楽しそうに歩いている親子が多かったです。参加者の感想では、「一時間半程度の散歩道で丁度良い」「知らない道、知らない町会名があった」「密にならないようコースができていた」「親子で知恵を絞ってクイズを解くのが楽しかった」というご意見があり、見ていた地域の方からも「掲示板がこのように使われるのはびっくりしたけど、町会名を知ってもらうのには良かった」という話を伺いました。今回は委員だけでなく、町会からの有志の方も手伝っていただき、スタッフも一緒に楽しむことができました。もちろんハロウィンなので、スタッフもハロウィン仮装をして参加をしました。

コロナ禍の影響により、令和3年度の行事予定もはつきりしない状況ですが、大原青少年健全育成会では、地域の子どもたちや親子のために可能な限り全ての行事が安全に開催できるように準備を進めたいと思います。直前に中止になるかもしれませんが、例年通りの活動をしたと思います。親子で参加できる行事、親子で会話しながら楽しめる行事を大原青少年健全育成会では目指しています。

令和2年度 第Ⅲ期定例研修

(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から自習形式)

薬物事犯者の処遇について

東京保護観察所 保護観察官 古川 智之

今回の研修では、薬物事犯者への処遇を行う際のポイントや家族支援・地域連携についての理解を深め、保護司として薬物事犯者を担当する際の適切な対応方法を身に付け、より効果的な処遇を行えるようになることを目的としています。

当職の前職には依存症(=アディクションと呼ぶ)治療専門の精神科クリニックでソーシャルワーカーをしていた経験があります。研修資料には「薬物依存の7つの特徴」の説明がありましたが、当職の経験上で補足説明しておきたいのは「依存症は否認の病」であるということです。彼らがよく使う否認の種類は全部で8つあります。①身体問題へのすりかえ(本人にしか解らないような身体問題を理由に自身のアディクション問題を隠す。しかし、アディクション問題を理由に治療しないことには何も解決しない。例：肝臓障害、うつ病や不眠症)、②攻撃(怒ることによって周囲は、事態を静めることが第一となり、今あるアディクション問題が隠される。攻撃に弱い援助者は、自分に攻撃が移ってこないよう振るまってしまう。)、③褒める(援助者への賞賛や関心事を話題にして、援助者を酔わせることで問題を隠す。緊張感や不安感の弱い援助者は、すぐさま楽な話題に乗ってしまう。)、④批判(医療機関の治療構造や他者を批判する。援助者は自分に批判がこないよう、その話題に乗ってしまい、ネットワークを崩す。)、⑤その場にはいない人の話題(その場にはいない人の話をし、他者の批判をした後、「だけどあなたは特別だ」と援助者に取り入る。援助者は、自分が本人にとって特別な存在になるため話題に乗ってしまう。また「あなたにだけは言うけど」と二人だけの秘密を持つことで、援助者は自己満足する。)、⑥前向きな態度(援助者が喜びそうな一見前向きな態度や発言によって、問題を隠す。本人の回復は自分の援助の力によると考えている援助者は、前向きに頑張っている演技に

乗せられてしまう。「過剰適応」にも気付けない。)、⑦理由付け(冠婚葬祭などもっともな理由付けによって治療からドロップアウトしようとする。許可しないと、「訴えてやる」、「何かあったらどう責任とるんだ」などと脅す。)、⑧泣き落とし(自罰、自己卑下、自己憐憫など、自身の不幸を嘆き、援助者を酔わせて、アディクション問題を隠す。援助者自身の不健康性が本人の不健康性と共感してしまう。援助者が健康ならば、問題も核心が見える。)、以上、依存症者の特有の否認によって周囲を困らせる(巻き込み)ことで自身の問題を棚上げします。このことを理解した上で否認に対する効果的な対応方法のポイントが3つあります。

1つ目は「処遇チームを作ること(個人で抱え込まない)」、2つ目は「処遇チームができれば、今後の処遇方針について話し合う機会を設けること(ケア会議及びケースカンファレンスと呼ぶ)」、3つ目は「処遇ルールを関係機関全てで共有すること」です。これら3つの対応方法を念頭におき、実際の処遇に活用すると薬物依存症対象者だけではなく、その他のアディクション問題を抱える対象者についても非常に効果的です。

アディクション問題とは、人間関係性の病であり、言い換えれば、他人との関わり方の障害に基礎付けられています。彼らの依存対象へのこだわりは決して満たされることのない他者への愛情の置き換えに過ぎないのです。

性善説があるように、薬物依存症者も生まれながらそうであった訳ではないのです。依存症者の中には、親から虐待を受けたり、他人から裏切られる等の傷つき体験を背景に他人を信じることができない者も少なくはありません。保護司の皆様方には今一度、そのような彼等と向き合い、信頼関係を築いていって頂くことが期待されております。

令和2年度 文京区保護司会年末全員集会

日時 令和2年12月10日(木) 午後4時より
場所 文京区民センター2A



本年は新型コロナの影響で総会も書面決議となり、保護司会の活動も限られたものとなり恒例の年末全員集会も開催が心配されましたが、制限付きで行われました。「来年、令和3年には、この新型コロナ騒動が終息し普段通りの保護司活動出来る様にと願っています。その為にも皆様方には自分の体調には十分気を付けて頂きたい。」という異例の文京区保護司会会長挨拶から始まりました。

開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策の制限に沿ってできる限りの準備を整えました。会場の換気、十分な席の間隔、参加者全員のマスク着用はもちろんの事、挨拶の度にマイクのアルコール消毒、さらにはマイクカバーの交換をいたしました。総会も出来ず保護司活動も縮小、中止が相次いだ1年、このような状況の中、なんとか本年最後の年末集会を開催するのだという意気込みが保護司会全員の声として聞こえるようです。会長の挨拶後、令和2年度の表彰が亀田会長、古川芳昭東京保護観察所長により行われました。日頃の保護司活動が認められての表彰おめでとうございます。今年度表彰された皆様は以下の通りです。

【令和2年度 文京区受章者及び受彰者】

春の叙勲 瑞宝双光章

深澤静江

藍綬褒章

田上侑司

法務大臣表彰

諏訪紀子

全国保護司連盟理事長表彰

山口淳

市川秀子

関東地方保護司連盟会長表彰

岸田光央

清水道隆

白石英行
本間和久
東京都保護観察所長表彰
青木崇弘

金井輝夫
北山紀子
富田直美
宮本重則

東京都保護司会連合会会長表彰

岡崎礼子

名取顕一

東京保護観察所長感謝状

家族功勞 高北一

文京区保護司会にも東京都更生

保護協会への協力金に対して法務

大臣より感謝状をいただいた事を

亀田会長から報告がありました。

続いて丸山桐友会支部長による御

発声のもと乾杯となりましたが、

これも感染予防という事で例年では

考えられないペットボトル、し

かもキャップを開けずに行われま

したが、乾杯の音頭に合わせて全

員での発声には力強いものを感じ

ました。

また成澤文京区長、海老澤文京

区議会議長、古川芳昭東京保護観

察所長、古川智之主任官、時田更

生保護女性会会長、文京区福祉部

木幡部長、矢島課長、中村係長、

桐友会丸山様、後藤様、三国本富

士警察少年課係長、小林駒込警察

少年課係長の皆様には、お忙しい

なか御参加頂きありがとうございます

ました。皆様にご挨拶の言葉を頂き、記念撮影、続いて各部よりの連絡の後、西村副会長の挨拶で閉会となりました。

懇親会も無く寂しい年末集会でしたが、来賓挨拶での成澤区長の言葉がどうしても忘れられず書き留めました。「今年はコロナの状況下で厳しい中、更生保護、青少年健全育成、青少年の非行防止に尽力頂き感謝をいたします。今年は多くの行事を行うことが出来ませんでした。恒例の7月に行われる『社会を明るくする運動』『文京区矯正展』のみならず、それぞれの活動に著しく制限をもうけられた一年になってしまいました。

更生保護の案件を抱えていらっしゃる皆様には、コミュニケーションの方法にも様々な苦労があった事と思います。そんな中でもこの年末24、25日に『社会を明るくする運動』の啓発活動がビッグセンター周辺で行われる様ですが、クリスマスに合わせた活動というのは非常に意味のあることだと思えます。この厳しい状況になつて家計が急変している家庭も多くある訳ですし、このコロナ禍において女性に対する暴力が増えている、痛ましい案件も増えているとの報告も国内外からあるようです。貧困の世界では『剥奪指標』という基準がありますが、

例えば普通の家庭ではクリスマスプレゼントを貰うことが出来るが、貧困の家庭では貰うことが出来ない。その事が回り廻つて次の犯罪を生んでしまうという『負の連鎖』も指摘されているところで、クリスマスは時期に合わせて社会に対して啓発活動を行う重要性を、保護司会の皆さんが自ら行動していただけることに感謝をいたします。先日亀田会長、古川所長とのお話で、新たな動きとして班別の集まりでは『ZOOM』を活用したコミュニケーションをとられているところもある様で、社会の変容に合わせ保護司会の活動のあり方も、元に戻るだけでなく色々な組合せの仕方を皆さんの中で考えて頂いて、新たに意義を進めていかなければならないと認識しています。来年こそは厳しい時代ではありますが活動を一歩前に進め、『社会を明るくする運動』そして囑望された子達がしっかりと社会復帰できるような『更生保護の活動』がさらに充実します様に心から祈念いたします。」

世界中で起きている未曾有の情勢の中、マイナスだけと捉えず新しい活動の方向性を見つけるチャンスと捉え一歩前へ進むという、私達保護司への区長からの「大きなエール」と感じ得ずにはいられません。

総務部 加文字 秀次

9 第570号 令和3年3月25日 情報

令和2年度年末全員集会
令和2年12月10日(木)
於…文京区民センター2A
出席者…47名他12名
顕彰式典表彰者紹介 (伊藤記)

第70回 社会を明るくする運動
令和2年12月24日(木)
於…文京シビックセンター周辺
出席者…36名更生保護女性会5名
福祉課職員5名他
シビックセンター周辺3ヶ所啓発品の配布 (伊古田記)

令和2年12月25日(金)
12…40…13…30
於…文京シビックセンター周辺
出席者…33名更生保護女性会4名
福祉課職員5名他
シビックセンター周辺3ヶ所啓発品の配布 (伊古田記)

正副会長会議
令和2年10月1日(木)
18…30…20…00
於…文京区民センター4A
出席者…8名
第2ブロック保護司組織運営連絡協議会について (伊藤記)

令和2年11月2日(月)
18…30…20…00
於…文京区民センター4A
出席者…8名
年末全員集会(案内先の確認、今年度受賞者報告、12月の社明運動について) (伊藤記)

令和2年12月1日(火)
18…30…19…40
於…文京区民センター4A
出席者…7名
年末全員集会打ち合わせ、社明運動の当日の確認 (伊藤記)

令和3年1月5日(火)
13…30…14…45
於…文京区民センター4A
出席者…11名
サポートセンター、相談室を休止する。社明運動の報告。広報部から保護司会のホームページの立ち上げ、情報発信に向けた計画案提示 (伊藤記)

令和3年2月1日(月)
13…30…14…30
於…文京区民センター4A
出席者…5名
理事・役員会について、会長選挙について委員会設置の検討等 (伊藤記)

令和2年11月5日(木)
18…30…19…20
於…大原地域活動センター
出席者…27名
上半期、各部署各班の活動報告、会計報告及び下半期の活動予定
第2ブロック保護司組織運営連絡協議会の報告 (伊藤記)

第2ブロック保護司組織運営連絡協議会
令和2年10月26日(月)
14…00…16…30
於…シビックセンター5F会議室
出席者…9名 区職員2名
協議会「開かれた保護司組織について」 (伊藤記)

令和2年10月20日(火)
14…00…16…30
於…文京シビックセンター、サポートセンター
東観所長を成澤区長に紹介し会議出席者…3名他2名 (伊藤記)

令和2年11月26日(木)
18…30…19…50
於…文京区民センター4F
年末全員集会の打ち合わせ
出席者…11名 (伊藤記)

令和2年12月23日(水)
11…30…12…30
於…サポートセンター
令和3年の自主研修の資料作成
出席者…2名 (市川記)

令和2年12月22日(火)
13…00…13…30
成澤区長に24、25日の打ち合わせとお願ひ
於…文京シビックセンター区長室
出席者 関口 福祉政策課4名 (関口記)

令和2年11月30日(月)
13…00…14…30
社会を明るくする運動の啓発品2870セットを配布し運動の趣旨を伝える
於…文京区立公立立中学校10ヶ所
出席者 関口

令和2年12月8日(火)
15…40…17…00
令和2年12月14日(月)
16…00…16…50
令和2年12月18日(金)
16…00…16…40
社会を明るくする運動 活動場所・参加者確認及び名簿作成、各種調整
於…文京シビックセンター11F
出席者…関口 福祉政策課2、4名 (関口記)

令和2年12月22日(火)
13…00…13…30
於…指ヶ谷小学校校長室
出席者…2名他1名
出前講座の打ち合わせ (今井記)

令和2年11月7日(木)
15…00…16…15
於…文京シビックセンター13F資料室
出席者…3名 福祉政策課2名
区からの提案のある区のホームページに「情報」の掲載について
区の施設へ「情報」の配架について (堀内記)

令和2年11月15日(木)
14…00…15…30
於…実華道場スナック竜岡
出席者…3名
三者懇談会について検討 (今井記)

令和2年11月5日(木)
19…30…20…30
於…大原地域活動センター
出席者…3名
出前講座について、三者懇談会について検討 (今井記)

令和2年11月16日(月)
13…30…14…00
於…指ヶ谷小学校校長室
出席者…2名他1名
出前講座の打ち合わせ (今井記)

令和2年12月14日(月)
13…00…16…00
於…文京保護司会サポートセンター
出席者…2名
情報569号送付作業及び会議
(山田記)

令和2年12月14日(月)
13…00…16…00
於…文京保護司会サポートセンター
出席者…2名
情報569号送付作業及び会議
(山田記)

令和2年11月27日(金)
13…00…15…00
於…文京シビックセンター4Fシブレットセンター会議室A
出席者…8名 更生保護女性会4名
情報569号送付作業及び会議
(山田記)

令和2年11月5日(木)
19…30…20…30
於…駒込地域活動センター
出席者…9名
新任保護司紹介
役員選挙委員選出 (加文字記)

令和2年11月6日(金)
18…30…20…00
於…湯島地域活動センター
出席者…13名
理事役員会報告
役員選挙委員選出 (本間記)

令和2年11月23日(金)
18…30…19…20
於…駒込地域活動センター
出席者…9名
新任保護司紹介
役員選挙委員選出 (加文字記)

令和2年11月16日(月)
13…30…14…00
於…指ヶ谷小学校校長室
出席者…2名他1名
出前講座の打ち合わせ (今井記)

令和2年11月4日(水)
17…30…19…00
於…大塚警察署会議室
出席者…10名 大塚警察署少年係3名
管内の犯罪状況について
大塚班内での検討事項を協議 (西川記)

令和2年11月4日(水)
17…30…19…00
於…大塚警察署会議室
出席者…10名 大塚警察署少年係3名
管内の犯罪状況について
大塚班内での検討事項を協議 (西川記)

令和2年11月6日(金)
18…30…20…00
於…湯島地域活動センター
出席者…13名
理事役員会報告
役員選挙委員選出 (本間記)

令和2年11月5日(木)
19…30…20…30
於…駒込地域活動センター
出席者…9名
新任保護司紹介
役員選挙委員選出 (加文字記)

令和2年11月16日(月)
13…30…14…00
於…指ヶ谷小学校校長室
出席者…2名他1名
出前講座の打ち合わせ (今井記)

令和2年11月27日(金)
13…00…15…00
於…文京シビックセンター4Fシブレットセンター会議室A
出席者…8名 更生保護女性会4名
情報569号送付作業及び会議
(山田記)

令和2年12月14日(月)
13…00…16…00
於…文京保護司会サポートセンター
出席者…2名
情報569号送付作業及び会議
(山田記)

令和3年1月22日(金)
14…00…15…45
於…堀内宅ほか
出席者…4名
保護司のための発達障害の理解と対応
講師・白百合女子大副学長 宮本信也氏

令和3年2月9日(火)
14…00…15…45
於…堀内宅ほか
出席者…3名
保護司のための薬物依存症者への理解と対応
講師…精神科医 和田清氏 (堀内記)

令和3年2月9日(火)
14…00…15…45
於…堀内宅ほか
出席者…3名
保護司のための薬物依存症者への理解と対応
講師…精神科医 和田清氏 (堀内記)

令和2年11月6日(金)
18…30…20…00
於…湯島地域活動センター
出席者…13名
理事役員会報告
役員選挙委員選出 (本間記)

令和2年11月5日(木)
19…30…20…30
於…駒込地域活動センター
出席者…9名
新任保護司紹介
役員選挙委員選出 (加文字記)

令和2年11月16日(月)
13…30…14…00
於…指ヶ谷小学校校長室
出席者…2名他1名
出前講座の打ち合わせ (今井記)

令和2年11月27日(金)
13…00…15…00
於…文京シビックセンター4Fシブレットセンター会議室A
出席者…8名 更生保護女性会4名
情報569号送付作業及び会議
(山田記)

哀悼
桐友会 小山内勝子様
令和3年1月17日ご逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



「男の料理教室」 カレーづくり その2

文京区更生保護女性会会長 時田 千里

昨年10月15日(木) 実華道場ステッ
プ竜岡にて行われた「男の料理教室」

において、施設より丁寧なお礼の言葉と寮生の皆様
からの感謝の一言をいただきました。施設のご了解を
いただき一部を抜粋して紹介いたします。

「心のこもった美味しい食事をいただきました。ありがと
うございました」

「女性会の皆様からのカレーを食べ自分の部屋で泣きまし
た。こんな私ですが支えてくれる施設の先生、女性会の
皆様に感謝しております。私、頑張つて更生していきます」
「久々の家庭の味を味わえました。一緒に作り感謝の気持
ちを伝えたかったです」

「手作りのカレーを食べたのは数年ぶり。とても心あたた
まる味でした」

「亡き母の手料理を思い出し皆様のあたたかいご支援に感謝
の気持ちを忘れずに残りの人生を頑張つて生きていきます」

「今までで一番おいしいカレーでした。私も早く社会に復
帰し支えてもらう側から少しでも支える側になりたいと
思います」

「とてもおいしかったです。今日の事はステップ竜岡での思
い出として心の中に刻まれました」

「自分の気づかないところで沢山の人達に支えられ僕達の
将来に期待してくれる方々がいるのだと気づかされまし
た」

ほかにもいろいろな感想をいただき、更女のこれか
らの活動の励みとさせていただきます。



「アートギャラリー」に参加して

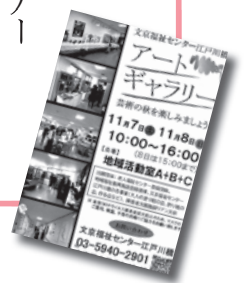
大塚地区 田中 すみ江

11月7・8日の両日に渡り文京総合

福祉センター江戸川橋で、職員の方々
の丁寧なコロナ感染予防対策の下で「アー
トギャラリー」が開催され、更女も参加致しました。

出展は、地域福祉振興施設登録団体、老人福祉
センター登録団体、福祉センター江戸川橋の各事業
の会、障害者支援施設リアン文京さんでした。各団
体の出展ブースには飾り付けにも工夫が施され、素
敵な作品が陳列されました。編物・手縫いの衣服や
バッグ類、手芸小物や壁掛細工、絵手紙や折り紙等々
立派な作品群です。リアン文京さん関連の中高生の
作品「カラフルエッグワールド」と謳った、紙の素材
で作られた丸い器の中に電球が灯り、寄り添い集う
器の和に温もり感が漂っていました。他のブースで「新
聞紙で簡単に作れるエコバッグ」の作り方を教えてい
ただき、帰宅後早速作ってみました。簡単に応用範
囲も広く意外に丈夫でした。

そんな中で更女も展示方法に工夫をこらし、いつ
ものパネルに手作りの落葉の切り抜きを貼り付け、
秋の雰囲気を感じ見栄えのするパネルを中央に、テー
ブルの上には『文京更女』『情報』等更生保護活動
関係のちらしを配置しました。残念ながら来
場者は少数でしたが、数人の方はパネルに目
を通され興味を示された方もいらっしゃいまし
た。活動を知っていただき賛同を得て、仲間
が増えていける様に頑張ろうと思っています。





駒込班 山本 諭

10年以上前に主任官が雑談で「保護司は地元では名士です」と語った。それならば地元では保護士か？それはどうであれその時私はそんな大それた者ではないと思っていた。今になりそれなら何か？社会資源であるので保護司の司は保護資かと考えた。しかしこの字には資格とか資質といった意味もあり、それだけの能力があるのかと自問すると到底それには及ばない。

ある時若い対象者がこちらの言動をじっと観察している視線を感じ、ここは保護師として振舞い範を示さなければならぬと思ひ居すまいを正した事があった。

会での役職がついてからはその仕

事の多さや煩雑さから保護仕にもなっている。そして大前提として我々は篤い志を持つ保護志であり、往訪時には保護伺となり指導監督時は保護指でもある。

これではきりがなくホッと一息つけないので終わりにするが、保護司は多種多様な場面でそれなりの役割を果たさなくてはならない。その為には常に自分に磨きをかけ努力を必要があるのだと。



駒込班 伊藤泰子

自粛期間に断捨離を思いつき、娘時代からの着物や帯の処分を考えて、知人に貰って頂きました。その方は縫製のプロで、手作りしたお人形を東日本地震被災地の岩手で、何も無くなってしまうていた保育園へ寄付をし続けながら、毎年訪問しているそうです。それを聞いていたも

ので、役立てて貰いたかっただけなのにそれらの生地の一部を使って、私にバッグや、小物入れ等に仕立てて贈ってくれました。愛用の布地が手元に残ったら、寂しくないでしょうとのお手紙も添えてくれました。震災の後に、毎年出かけて行く度に高台の上っては、復興の進みの遅さに落胆して帰るとも聞きました。震災前でしたが、初めて保育園に行つた時、お人形を笑顔で抱いていた子供たちが、もうすっかり成人になりました。でも今年はいに行けないので、仕上げたら送るつもりだそうです。

頂いた思い出ある着物生地の、大小小物入れは、通帳、保険証、印鑑入れなどに嬉しく使わせて頂いています。

いつか又、お互いに元気で、マスクも外して会えますように。

温かい笑顔の行き来が再開できる日が何とも待ち遠しいと思います。

あとがき

新型コロナウイルス感染拡大の中、不安を抱えながら新年を迎えました。新しい年への希望を、今年こそ東京オリンピック・パラリンピックの開催を、と思った矢先に二度目の緊急事態宣言、さらにその延長。これまで以上に生活様式をどう変えていくか、それぞれの行動、考えをいま一度振り返って正して行かなければいけません。医療現場で日夜戦って下さっている方々のためにも。

そんな厳しい状況の中、当570号にご寄稿下さった方々に心より感謝申し上げます。我々広報部もグループラインを使いながら連絡を取り合い、この号を発行する事が出来ました。

この号が皆様の元に届く頃には今以上に感染が収まっている事を心より祈っています。

米岡 春美

〈広報部〉 森山 堀内 山田 大橋
時田 米岡 伊古田 浅川
根尾 清水 岡崎 西川

情報 第五七〇号

編集 文京区保護司会 広報部

発行人 文京区保護司会会長 亀田一良

事務局 文京区春日一―六二―一

文京区役所福祉政策課内

印刷所 企画・宣伝協同組合

エコフィールド事業本部